

1. シンポジウム

開催日	テーマ & 演題	コーディネータ & 講師
平成15年 2月7日 (金) 参加者 116名	『再生医学：実現への期待と課題』 — 演題 — ・幹細胞からみた再生医学 ・医用工学と幹細胞研究から再生医療へ ・膵β細胞の再生にむけて ・幹細胞から網膜細胞誘導 ・成体幹細胞を応用した再生医療と創薬の現状と課題 ・幹細胞研究の倫理的・社会的問題	大阪大学微生物病研究所 教授 仲野 徹 京都大学再生医科学研究所 教授 岩田 博夫 — 演題 — 大阪大学微生物病研究所 教授 仲野 徹 京都大学再生医科学研究所 教授 岩田 博夫 大阪大学医学系研究科 教授 宮崎 純一 京都大学医学研究科 助教授 高橋 政代 協和発酵工業(株) 主任研究員 桜田 一洋 京都大学人文科学研究所 助教授 加藤 和人

2. セミナー

開催日	テーマ & 演題	コーディネータ & 講師
平成14年 6月11日 (火) 参加者 82名	『植物の発生・分化と生存戦略』 — 演題 — ・植物細胞における新規オルガネラの分化誘導 ・植物細胞の分化転換とプログラム細胞死 ・植物の器官発生と形態形成の機構について ・細胞死を利用した植物の免疫機構 ・植物の環境ストレス耐性の分子機構と耐性植物の開発 ・アブラナの自家不和合性における自他識別機構	京都大学大学院理学研究科 教授 岡田 清孝 — 講師 — 京都大学大学院理学研究科 教授 西村いくこ 東京大学理学系研究科 教授 福田 裕徳 岡田 清孝 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 教授 島本 功 国際農林水産業研究センター 主任研究官 篠崎 和子 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 教授 磯貝 彰
9月20日 (金) 参加者 188名	『生活習慣病の主役としての脂肪細胞』 —アディポサイエンスの新展開— — 演題 — ・エネルギー恒常性の維持機構におけるオレキシンの新展開 ・生理活性ペプチドによるエネルギー代謝調節機序および病態との関連 ・脂肪細胞分化とシグナル伝達 ・脂肪細胞とインスリン抵抗性のメカニズム ・生活習慣病とアディポサイトカイン ・生活習慣病におけるレプチンの意義	大阪大学大学院医学系研究科 教授 松澤 佑次 大阪大学大学院生命機能研究科・ 医学系研究科 教授 下村伊一郎 — 講師 — 筑波大学基礎医学系 助教授 櫻井 武 宮崎医科大学第三内科 講師 中里 雅光 神戸大学大学院医学系研究科 教授 春日 雅人 東京大学大学院医学系研究科 助教授 門脇 孝 大阪大学大学院生命機能研究科・ 医学系研究科 教授 下村伊一郎 京都大学大学院医学研究科臨床病 態医科学 教授 中尾 一和

<p>12月6日 (金) 参加者 104名</p>	<p>ブレインサイエンスシリーズ 第15回 『運動神経疾患の治療をめざす基礎と 臨床の最先端』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 損傷運動ニューロンの生と死 ・ 中枢神経の軸索再生のメカニズム ・ E S細胞からの運動神経前駆細胞の分化誘導 ・ 内在神経前駆細胞を用いた損傷脊髄再生の試み ・ 家族性ALSの病因と治療法について ・ 脳卒中後不随意運動の脳内植え込み電極による制御 	<p>大阪大学大学院医学系研究科 教授 遠山 正彌 大阪市立大学大学院医学研究科 教授 木山 博資</p> <p>— 講師 —</p> <p>大阪市立大学大学院医学研究科機能細胞 形態学 瀬尾寿美子 大阪大学大学院医学系研究科ポストゲノム 疾患解析学講座 助教授 山下 俊英 慶應義塾大学医学部生理学教室 島崎 琢也 東京大学大学院医学系研究科神経生物学 講座 助教授 中福 雅人 大阪大学大学院医学系研究科生体統合 医学神経機能医学講座 教授 佐古田三郎 日本大学医学部脳神経外科学講座 教授 片山 容一</p>
<p>平成15年 2月27日(木) 参加者 118名</p>	<p>『ファーマコジェノミクスと臨床的エビデンス』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNPs解析を応用した臨床研究と医薬品適正使用 ・ CYPsの薬理遺伝多型の治療学的エビデンス ・ 精神疾患とファーマコジェノミクス ・ 薬物トランスポーターの薬物動態的・ 生理的役割と遺伝子多型 ・ 抗悪性腫瘍薬のファーマコジェノミクスと 臨床的応用 ・ 循環器薬の標的分子とクリニカルファーマ コジェノミクス 	<p>大阪大学大学院薬学研究科 教授 東 純一</p> <p>— 講師 —</p> <p>ヒュービットジェノミクス(株) 代表取締役社長 一圓 剛 熊本大学大学院薬学研究科臨床薬学 薬物治療学講座 教授 石崎 高志 新潟大学大学院医歯学総合研究科 教授 染矢 俊幸 東京理科大学薬学部生物薬剤学研究室 教授 玉井 郁巳 埼玉医科大学臨床腫瘍科 教授 佐々木康綱 愛媛大学医学部第二内科 教授 檜垣 實男</p>

技術講習会

開催日	テーマ & 演題	コーディネータ&協賛企業&講師
<p>29回 平成14年 6月28日 (金) 参加者 30名</p>	<p>『ノイズを含むアレイデータの情報処理 : 理論と実践』</p> <p>■ねらい マイクロアレイ技術を利用されている研究者を 対象に、DNAチップデータの解析法について、実 験テクニックの説と生データのコンピュータによ る統計解析実習を行う。</p> <p>■プログラム</p> <p>技術解説</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. DNAチップ生データの作成法 (Chip on Chip法 を含む) 2. 多変量データ解析法: 理論と実際 <p>実演</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際のデータを使って何種類かの判別プログラ ムをエクセル、もしくはperlという言語を使っ て解く。 	<p>— コーディネータ —</p> <p>理化学研究所 主任研究員 白髭 克彦</p> <p>— 協賛企業 —</p> <p>アマシヤム バイオサイエンス バイオテック(株)</p> <p>— 講師 —</p> <p>白髭 克彦</p> <p>東京大学医科学研究所 助教授 矢田 哲士</p> <p>矢田 哲士 理化学研究所 横浜研究所 研究員 野口 英樹</p>

<p>第30回 7月5日 (金) 参加者 34名</p>	<p>『プロテオミクス技術講習会 電気泳動、質量分析、データ解析』</p> <p>■ねらい タンパク質の発現解析、機能プロテオミクスを実施しようとしている研究者に対して、二次元電気泳動および質量分析を中心に新しい技術・手法を説明し、それらの実際については実演を含めて紹介する。</p> <p>■プログラム</p> <p style="text-align: center;">技術解説</p> <p>1. 二次元電気泳動法とその応用</p> <p>2. 質量分析の概要とタンパク質の同定 実演</p> <p>1. 二次元電気泳動パターン解析とその応用</p> <p>2. 質量分析の実際とデータ解析</p> <p>3. 気相化学反応装置によるタンパク質の同定</p>	<p style="text-align: center;">－ コーディネーター －</p> <p>大阪大学蛋白質研究所 教授 高尾 敏文</p> <p style="text-align: center;">－ 協賛企業 －</p> <p>日本バイオ・ラッドラボラトリーズ(株) 旭テクネイオン(株) ジャスコインターナショナル(株)</p> <p style="text-align: center;">－ 講師 －</p> <p>大阪大学蛋白質研究所プロテオミクス総合研究センター 教授 高尾 敏文 大阪大学蛋白質研究所蛋白質代謝研究部門 助教授 奥村 宣明 日本バイオ・ラッドラボラトリーズ(株) ライフサイエンス事業部 中村 和愛 ジャスコインターナショナル株式会社 第二事業部 工藤洋一郎 旭テクネイオン株式会社科学事業部 藤田 哲史</p>
<p>第31回 8月6日(火) 参加者 53名</p>	<p>『蛍光顕微鏡細胞マルチカラーイメージング技術』</p> <p style="text-align: center;">－ 演題 －</p> <p>■ねらい 蛍光顕微鏡を用いて、複数の生体分子の挙動を生きた細胞で観察することを考えている研究者に対して、顕微鏡ステージ上での生きた細胞の扱い方、蛍光色素の導入法、顕微鏡観察方法、画像データの解析法およびアプリケーションを紹介する。</p> <p>■プログラム</p> <p style="text-align: center;">技術解説</p> <p>1. 蛍光顕微鏡による生細胞観察法の概要説明 2. デルタビジョン蛍光顕微鏡の特長と観察例 3. 分光共焦点レーザー顕微鏡の特長と観察例 実演</p> <p>1. デルタビジョン蛍光顕微鏡を用いた画像の撮影 2. 画像データの解析 3. 分光共焦点レーザー顕微鏡(LSM510 META)を用いた画像の撮影 4. 画像データの解析</p>	<p style="text-align: center;">－ コーディネーター －</p> <p>通信総合研究所 生物情報グループリーダー 平岡 泰</p> <p style="text-align: center;">－ 協賛企業 －</p> <p>カールツァイス(株) セキテクノトロン(株)</p> <p style="text-align: center;">－ 講師 －</p> <p>通信総合研究所 生物情報グループグループリーダー 平岡 泰 通信総合研究所 生物情報グループ主任研究員 原口 徳子 カールツァイス(株) 石館 文善</p>

4. 新適塾

(1) 千里神経懇話会

開催日	テーマ & 演題	オーガナイザー& 講師
<p>第52回 平成14年 5月24日 (金) 参加者 67名</p>	<p>『目で見える神経細胞のダイナミズム』</p> <p style="text-align: center;">－ 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きた細胞での低分子量G蛋白質の活性化を観る -FRETプローブによる解析- ・脳由来神経栄養細胞 (BDNF) のダイナミズム～リアルタイム共焦点顕微鏡を用いた可視化研究～ ・2光子励起法を用いたシナプスの機能研究 	<p>奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 細胞構造学講座 石川 保幸 塩坂 貞夫</p> <p style="text-align: center;">－ 講師 －</p> <p>大坂大学微生物研究所・腫瘍ウイルス分野 黒川 量雄 産業技術総合研究所・関西センター 小島 正巳</p> <p>岡崎国立共同研究機構・生理学研究所・生体膜部門 河西 春郎</p>

<p>第53回 7月23日 (火) 参加者 40名</p>	<p>『ストレスの脳科学：モデル動物における 遺伝子発現』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝子発現からみた心身症 ～「たこつぼ型心筋症」を中心に～ ・ 走運動ストレスと脳賦活効果 ～視床下部、海馬を中心に～ ・ 母子分離ストレスを用いた成人期ストレス 脆弱性形成に関する遺伝子の探索 ・ ストレス脆弱性モデルとしての逆耐性現象と 遺伝子発現 	<p>和歌山県立医科大学 教授 仙波 恵美子 上山 敬司</p> <p>— 講師 —</p> <p>和歌山県立医科大学 上山 敬司</p> <p>筑波大学体育科学系運動生化学 征矢 英昭</p> <p>広島大学大学院医歯薬学総合研究科 精神神経医科学 森信 繁、 辻 誠一、澤田 卓哉、川野 樹一郎、 末永 貴美、山脇 成人</p> <p>東京医科歯科大学大学院 精神行動医科学分野 西川 徹、 海野 麻未、梶井 靖、黒田 安計、 柏 淳、伊藤 卓、車地 暁生</p>
<p>第54回 9月27日 (金) 参加者 57名</p>	<p>『小胞体から発信される細胞死の新展開』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小胞体からミトコンドリアへのストレス伝播 とその応答 ・ ERストレスにより誘導されるカスパー ・ ERストレス誘導体アポトーシスにおける レティキュロンファミリーのカスパー 活性化能 	<p>奈良先端大学院大学 助教授 今泉 和則 大阪大学大学院医学系研究科</p> <p>助手 片山 泰一</p> <p>— 講師 —</p> <p>金沢大学大学院医学系研究科 解剖学第三講座 堀 修</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科 プロセッシング機能形態学講座</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科 遺伝子学講座 人見 淳一 恵口 豊</p>
<p>第55回 平成15年 1月30日 (木) 参加者 61名</p>	<p>『Rhoを介した神経軸索制御』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ cdk inhibitor p21 の神経細胞分化、成熟に及ぼす作用 ・ ミエリン由来蛋白による神経再生障害 の分子機構 ・ 末梢神経損傷により発現上昇の見られる Fn14は神経突起伸長を促進する ・ 軸索形成・伸展とRhoエフェクター 	<p>大阪市立大学大学院医学系 研究科 教授 木山 博資</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科 助教授 山下 俊英</p> <p>— 講師 —</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科ポストゲノム 疾患解析学講座 田中 啓之</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科ポストゲノム 疾患解析学講座 山下 俊英</p> <p>大阪厚生年金病院整形外科 田辺 勝久</p> <p>東京大学大学院医学系研究科神経生化学 尾藤 晴</p>
<p>第56回 3月20日 (木) 参加者 40名</p>	<p>『末梢神経の再生、発生』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PGA (Polyglycolic Acid) -Collagen Tube を用いた末梢神経生体内再生治療の最前線 ・ GDNFファミリーによる神経発生制御 	<p>奈良県立医科大学 第二解剖 和中 明生</p> <p>— 講師 —</p> <p>奈良県立医科大学 救急医学講座 稲田 有史</p> <p>京都大学再生医科学研究所臓器再建応用 分野 清水 慶彦、中村 達雄、他</p> <p>理化学研究所 発生・再生科学総合 研究センター 神経分化・再生研究チーム 榎本 秀樹</p>

(2) 21世紀の薬箱

開催日	テーマ & 演題	世話人 & 講師
第47回 平成14年 5月27日 (月) 参加者 37名	新しい治療戦略 第16回 『次世代遺伝子治療を目指したベクター開発』 — 演題 — 1. レンチウイルスベクター：非分裂細胞を標的 とした遺伝子治療のためのベクター開発 2. ナノテクフロンティアとしてのDDS：ケミカル ・ナノマシンへの挑戦	大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範 — 講師 — 筑波理化学研究所 バイオリソースセンター 三好 浩之 東京大学大学院工学系研究科 片岡 一則
第48回 6月24日 (月) 参加者 24名	『医薬品の衛生微生物管理』 — 演題 — 医薬品の衛生微生物管理 — その現状と課題 —	大阪大学大学院薬学研究科 教授 那須 正夫 — 講師 — 大阪大学大学院薬学研究科 見坂 武彦
第49回 7月29日 (月) 参加者 47名	『薬物依存の分子機構』 — 演題 — ・薬物依存の分子機構 ・アルコール依存の分子機構	大阪大学大学院薬学研究科 教授 馬場 明道 — 講師 — 大阪大学大学院医学系研究科 教授 三木 直正 川崎医科大学薬理学教室 教授 大熊誠太郎
第50回 11月25日 (月) 参加者 43名	新しい治療戦略 第17回 『エイズの予防と治療の最前線』 — 演題 — ・エイズとの闘い：予防・治療法の現状と 将来展望	大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範 — 講師 — 鹿児島大学医学部附属難治性 ウイルス疾患研究センター 教授 馬場 昌範
第51回 12月9日 (月) 参加者 28名	『ゲノム解析の光と影』 — 演題 — ・ゲノム解析の光と影	大阪大学大学院薬学研究科 教授 那須 正夫 — 講師 — 大阪大学遺伝情報実験センター ゲノム解析分野 教授 黒川 顕
第52回 平成15年 1月27日 (月) 参加者 53名	糖尿病の分子病態と先端治療 — 演題 — ・病態に基づいた糖尿病分類の試みと 新たな治療への展開 ・ES細胞を用いた再生医療 — 糖尿病治療への応用 —	大阪大学大学院薬学研究科 教授 馬場 明道 — 講師 — 大阪大院・医学系・分子制御内科学 講師 宮川潤一郎 大阪大院・医学系・分子治療学 教授 宮崎 純一

5. 千里ライサイエンス市民公開講座「成人病シリーズ」

コーディネータ：国立循環器病センター名誉総長 尾前 照雄 先生

開催日	テーマ & 演題	講師
第34回 平成14年 7月6日(土) 参加者 176名	『睡眠障害』 — 演題 — ・睡眠のメカニズムや役割とは？ ・居眠り社会日本における快適睡眠法とは？ ・睡眠障害—睡眠を障害するもの—	— 講師 — 大阪大学 健康体育部 教授 杉田 義郎 大阪府立健康科学センター 健康開発部 主幹兼医長 立花 直子 大阪市立大学名誉教授 三国ヶ丘病院 理事長 川北 幸男

第35回 10月26日 (土) 参加者 182名	『脳卒中治療の進歩』 — 演題 — ・早期受診の重要性と急性期治療の進歩 ・外科治療の適応と進歩 ・慢性期の管理	— 講師 — 国立循環器病センター内科脳血管部門 部長 峰松 一夫 国立循環器病センター脳血管外科 部長 永田 泉 国立大阪病院 診療部長 恵谷 秀紀
第36回 平成15年 2月15日 (土) 参加者 209名	『頻脈と除脈』 — 演題 — ・不整脈とは—その種類と性質— ・頻脈性不整脈の治療 ・ペースメーカーについて	— 講師 — 国立循環器病センター心臓血管内科 医長 鎌倉 史郎 国立循環器病センター心臓血管内科 医長 相原 直彦 宝塚市立病院 院長 小坂井嘉夫

6. 千里ナイチャー・カレッジ

回数/開催日	テーマ	参加者	
		生徒	指導員
第1回 5月25日 (土)	『野鳥・昆虫・植物の観察』 箕面駅→みのお山荘→オケ原池→こもれびの森 →地獄谷→箕面駅 (4.5km)	37名	22名
第2回 6月29日 (土)	『サルの観察(I)』 雨天のため箕面郷土資料館にて実施 (箕面駅⇄滝安寺⇄箕面滝⇄百年橋⇄天上ヶ谷) (サルの餌場) (往復7.5km)	35名	24名
第3回 10月19日 (土)	『サルの観察(II)& シンクスタディーと修了式』 箕面駅⇄滝安寺⇄箕面滝⇄百年橋⇄天上ヶ谷 (サルの餌場) (往復7.5km) (チャーターバスにて千里ライフサイエンスセンターへ) シ ンクスタディーと修了式	33名	24名

7. 千里ライフサイエンスフォーラム

開催月日	テーマ・演題	講師
117回 H14年度 4月17日 (水) 参加者25名	『ナノテクノロジーが開く新しい世界』	大阪大学産業科学研究所 教授 川合 知二
118回 5月22日 (水) 参加者21名	『神経筋難病医療の移り変わり』	国立療養所刀根山病院 副院長 神野 進
119回 6月21日 (金) 参加者39名	『日本』と『天皇』の誕生	国際日本文化研究センター 教授 千田 稔
120回 7月19日 (金) 参加者29名	『サルの母子関係』	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 南 徹弘
121回 8月26日 (月) 参加者42名	『骨はどのようにしてできるか?』 軟骨分化の謎を探る	大阪大学 名誉教授 鈴木不二男
122回 9月26日 (木) 参加者24名	『新しい都市災害の姿』 — 2001年9月11日ニューヨーク・ワールド トレードセンター —	京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 教授 林 春男

123回 10月24日 (木) 参加者25名	『ゆとり教育が生み出したもの』	京都大学経済研究所 教授 西村 和雄
124回 11月14日 (木) 参加者29名	『小林一三翁がめざした文化と企業の融合』	榊宝塚クリエイティブアーツ 取締役会長 松原 徳一
125回 12月17日 (火) 参加者37名	『宇宙はどこまでわかっているか』	名古屋大学大学院理学研究科 教授 池内 了
126回 平成14年 1月23日 (木) 参加者34名	『精緻な日本酒造りーその秘密を解くー』	月桂冠株式会社総合研究所 所長 川戸 章嗣
127回 2月20日 (木) 参加者29名	『エイジレス・エイジの世代関係』	国立民族学博物館 教授 野村 雅一
128回 3月19日 (水) 参加者34名	『千利休』	大阪歴史博物館 館長 脇田 修